

# 令和3年度 三次商工会議所 経営発達支援計画 事業評価書

令和3年度の三次商工会議所経営発達支援計画の各事業について、次年度以降の事業の見直し等につなげるための評価を行った。

「令和3年度 三次商工会議所 経営発達支援計画 事業評価委員会」

- 日 時 令和4年7月22日(金) 10:00～12:00
- 場 所 三次商工会議所2階第3会議室
- 出席委員

県立広島大学	名誉教授	藤田 泉
(有) 開成マネジメントサービス	代表取締役・中小企業診断士	塩田 典照
三次市産業振興部	産業振興部長	中廣 晋
三次商工会議所	専務理事	八谷 尚幸

- 事業評価基準について  
事業評価にあたっては下記の基準で評価を行った。

評価値	評価基準
A	十分達成している
B	概ね達成している
C	どちらかという達成していない
D	未達成

- 評価結果  
評価者は3名で各事業の評価結果は下記の通り。  
表中の数字は該当する評価を行った評価者の人数。

評価事項／評価値	A	B	C	D
1 地域の経済動向調査に関する事【指針③】	3			
2 経営状況の分析に関する事【指針①】	1	2		
3 事業計画策定支援に関する事【指針②】	1	2		
4 事業計画策定後の実施支援に関する事【指針②】	1	2		
5 需要動向調査に関する事【指針③】	3			
6 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事【指針④】		2	1	
7 地域経済の活性化に資する取組	1	2		
8 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事	2	1		
9 経営指導員等の資質向上等に関する事	2	1		

(委員からの意見、コメント等)

- 委員 商工会議所では、経営の分野でも市役所等と協議しながら外部の人材活用を検討されているようなことはあるのですか？三次市外や県外から。  
今日の事業報告そのものではないが、これを読まさせていただいて内部の人材だけで対応されようとしているのではないかという気がした。
- 事務局 中小企業119の専門家派遣などを活用し、事業者のニーズに合った伴走型支援を行っている。
- 委員 やり方は見えてきましたよね。対面が難しいのでオンラインなどに変えられるところは変えて、充分ではないかもしれないけれども参加者を得られて、そこから情報(ニーズ)も得られていくと。
- 委員 今回はっきり結果としてできましたよね、対面はだめよと。それでICTを活用できるところは事業として継続できますよと。じゃあ対面でないといけないものをどうICT化するかというやり方については課題というか方向性は見えてきましたよね。今回はその目的を達成するために対面では出来ないことをちょっと形を変えて目的の情報なら情報をとる試みはしましたよと。  
こういう柔軟性は必要かなと思うんですよね。5年計画の中での継続性だけでも、目的を失わないで、環境変化に応じてやり方を変えるみたいなことはいいのかなと私は思います。
- 委員 経営状況の分析に関する内容で分析件数61件という数字があるが、この61件は商工会議所の中の対象の何%くらいにあたるのか見えない。
- 事務局 対象者は三次商工会議所・旧三次市内の地域の小規模事業者、製造・建設の従業員が20名以下、商業・サービス業の従業員が5人以下の小規模事業者。全体で1472社です。これが経営発達支援計画で想定している小規模事業者の全体数です。  
経営発達支援計画で支援する対象事業者というのはその中から国の言い方で言いますとやる気がある事業者。自ら持続的発展を目指す事業者に対しての支援ということで、これは国の方も1472社全体をフォローしようということではないので、その中で三次の目標件数が60社。ちなみに三次の商工会議所管内の商工業社数が1832社。うち小規模事業者数が1472社です。
- 委員 今回は昨年と違い、職員の研修会などかなり相当頑張っておられると分かる。概要の課題でできていない項目を今後対応されたらいい。頑張っているのもよく見えるのだけでも、頑張った中身の部分が見にくい。